

きよみず

学校だより 学力特集号



北九州市立清水小学校
校長 中原 健治

学校教育目標

やさしさを持ち、たくましく生きる子どもの育成

〇めざす子ども像

- ・自分も他人も大切にし、仲間とともに高まる子ども
- ・すすんで学び、主体的に考え判断する子ども
- ・ねばり強く最後までやりぬく子ども
- ・健康で安全な生活のできる子ども

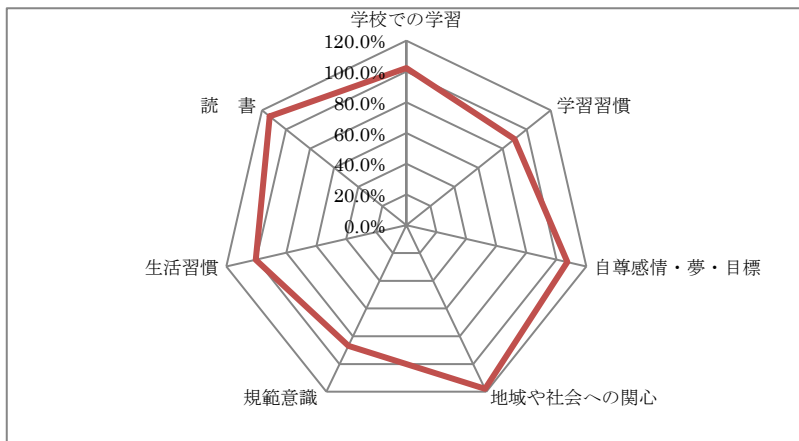
平成31年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」については、平成31年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。学力の定義や捉え方は様々であり、一概に論じることはできません。この学力調査もそのときの学力の一部を表しているに過ぎませんが、この結果も客観的な指標の一つであると考えます。本校では調査結果も重視し、今後も効果的な指導や学力向上につながる教育活動が実践できるように努めてまいります。ご家庭でも家庭学習チャレンジハンドブックなどを参考にされ、お子様の学習をご支援いただけましたら幸いです。

1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	学力調査の分析（傾向や特徴）	全国平均正答率との比較
国語	全体的には全国平均を上回っており、特に「報告文を読み、図表やグラフを用いた目的を捉える」問題は、全国平均を12%上回り、「説明文を読み取ったことを的確に書き表す」問題は、11%上回っている。しかし、「『友達にかぎらず』を漢字にする」問題は全国平均を下回った。漢字についてその意味や使い方とともにスキル学習を積み重ねていく必要がある。また、「目的や意図に応じて自分の考えを、理由を明確にしてまとめて書く」問題については、全国平均をわずかに上回っている程度で、今後の課題である。自分の考えを根拠や理由とともに話したり書いたりする学習活動を増やしていく。	上回っている
算数	全体的には、全国平均を上回っている。特に図形領域の「図形の性質に着目する」問題は14%、数と計算領域の「加法と乗法の混合した整数と小数の計算」問題は、15%も上回っている。特に後者は、週二回「ぐん算タイム」として混合四則計算を5分間集中して取り組んできた成果だと考えられる。唯一「棒グラフからA量はB量の何倍かを考える」問題は、全国平均を3%下回った。グラフの読み取り問題を多く取り入れ、見方や比較の仕方を定着させ、そこから分かることを話し合ったりノートに書き表したりする学習活動を推進していく必要がある。	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



- ・地域での催しや祭りに積極的に参加し、関心が高い。また、読書好きな児童が多い。
- ・「学校のきまり」を守っていると答えた児童が全国平均に比べて少ない。しかし、実際は規範意識が低いわけではなく、きまりを守って落ち着いた生活をしている。
- ・家庭学習については、取組時間が全国平均に比べると少ないが徐々に家庭学習への意識が高まってきている。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

- ◎学力向上のための特設時間の実施
 - ・朝の活動を「ぐんぐんタイム」とし、特に火曜日と木曜日は全校一斉に算数科の基礎計算練習問題（「ぐん算タイム」）や国語科の漢字練習（視写や漢字ミニテスト等）に取り組む。5校時前の5分を「のびっこタイム」とし、学力定着のための復習活動を積み重ねる。
- ◎子どもの理解を深めるための授業づくり
 - ・全校で学習モデルを研究実践する。「『めあて』づくり→自分の考えをもつ→ペア・グループ・全体で『話し合う活動』→『まとめ・振り返り』」という学習活動モデルを構築する。特に「話し合う活動」を充実させることで、自分の意見を持ち、友達の考えを取り入れながら自分の考えを広げたり深めたりできるように指導・支援を仕組む。自分の意見を述べる際には、大事な言葉を確認しながら理由とともに表現できるようにする。
- ◎「書く」ことを習慣化
 - ・学習の中で、「自分の考えを書く」最後に「『振り返り』を書く」などを書く習慣を身に付けるため、ノート指導を工夫し徹底する。また、よいノートを掲示し、励ましたり手本とさせたりする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ◎家庭学習のスタンダード化（時間、学年別・教科別内容）
 - ・家庭学習時間の最低ラインのめやす（学年×10分）を程度とする。
 - ・「家庭学習チャレンジブック」の活用を推進し、学校と家庭で周知できるようにする。
- ◎全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
 - ・児童質問紙の内容で重点的に取り組むものを抜粋して、児童にアンケートを実施することで、課題を明確にし職員の間で共通理解のもとで課題解決に取り組む。
 - ・学校だよりや学校HP等で結果と取組を説明し、家庭と連携し協力体制を整える。